

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171600275
法人名	有限会社 森
事業所名	グループホーム いこいの森
訪問調査日	平成20年3月18日
評価確定日	平成20年5月30日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600275
法人名	有限会社 森
事業所名	グループホーム いこいの森
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ケ里1811 (電話) 0954-65-3552

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成20年3月18日
評価確定日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 3 日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	10 人
常勤	6人
非常勤	4人
常勤換算	8.76人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート造り 3階建ての2階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	8,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,050 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森外科医院 織田病院 久野歯科 白石保養院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員で創りあげた運営理念の一つに「ありのままのあなたを受け入れます」とあるように、一人ひとりのこれまでの人生や想いを職員は素直に受けとめている。そして、その方にとってこれからの人生を幸せに、その方らしく生きていくための支援が行われている。施設長が「私の自慢は、職員です。」と言われるように、全職員が心一つにして、理念の実現をめざしている。職員は、心温まる態度で入居者に接している。施設長や管理者の適切な指導のもと地域とのかかわりも深く、開設時から地域と共に歩んでいるグループホームである。運営推進会議の立ち上げも早く、地域住民がホームに出入りする機会も多い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>特に改善点は無かったが、評価結果を運営推進会議で報告し、委員から意見をいただいている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がそれぞれに自己評価票を記入し、それを持ち寄って全員出席の会議で更に検討している。それが自分自身の支援の様子を改めて見直す機会にもなり、事業所全体の支援のあり方や反省の材料にもなっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では行事の様子、入居者の理解、その時々課題などいろいろな議題がある。地元消防団の防災退避訓練への参加、看取り介護の指針、町文化祭への作品出品等も会議での検討の結果、実現している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>介護計画の作成や見直しには、家族も参加して意見や希望を述べている。家族同士の話し合いや面会時の声かけによる対話等から意見や要望、家族の気持ち等を聴いて、運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>祇園祭や恵比寿正月に出かけたり、散歩や買い物で外に出たり、地域住民との接触がある。また、ホームの敬老会やひな祭りに地域の方も一緒に参加している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、住み慣れた地域の中で安心して暮らしが送れる様に支援すること、地域との密接な関係を築くことを基本としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で検討し、創りあげた理念である。常に理念を意識し、毎日の支援にあたっている。理念を全職員が目につく場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	それぞれの利用者の状態に応じて、買い物や散歩に出かけ、近所の方と挨拶や言葉を交わす事もある。職員も入居者と共に祇園祭や文化祭、地域の行事等に参加する機会が多々ある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、全職員参加の研修会で評価項目が実現できているかを話し合っている。より質の高い介護、支援を目指して、改善課題の解決に向けて取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では支援の実際が報告され、意見が交わされている。会議の結果として、餅つき、避難訓練、敬老会、ひな祭り等ホームの行事への地域の方々の参加も増え日常のサービス向上にも活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、毎月、案内文書や報告文書等を持って直接役場の福祉担当者を訪ねており、接触する機会も多い。文化祭や運動会参加についての協力を要請したり、新しい情報を得ることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りでホーム全体の事だけでなく、各個人毎に日常の様子を知らせている。面会時には必ず声をかけ、状況によっては電話での報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聴いている。ホームの行事や運営推進会議に家族にも出席してもらい、意見をいただいている。家族同士が話し合う機会も設けられている。要望や意見があった場合は直ちに検討が行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑え、異動があった場合は、引継ぎの時間を十分にとり、新しい職員と入居者が自然に馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期的な勉強会だけでなく、管理者は外部での研修会に全員を同時に参加する機会を設けている。支援にあたっては、経験年数の長い職員とそうでない職員を組み合わせた二人一組の担当制をとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービスでは、介護支援専門員と管理者や職員、利用者の相互交流がある。同じ町内の他の事業所からの見学もある。基礎のしっかりとした他事業所との交流があり、情報交換や、指導を受ける事もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居や面会をとおして不安の解消に努め、納得いただいてから入居してもらっている。入居後、状態が不安定な方には、家族の面会機会を多くしてもらったり、夜は職員が添い寝の形で支援することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の一つ「喜びや楽しみは勿論、悲しみや苦しみも分かち合えることが私たちの喜びです」をいつも意識しての支援をしている。日常の生活の中でも、入居者が自分のできる事はできるだけやっていただき、それが入居者の生き甲斐にもなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のご本人や家族との面会を通しての諸情報や入居後のちょっとした言葉や行動、介護計画見直し時の話し合い等から各人の思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	理念の「ありのままのあなたを受け入れます」実現のために、全職員が諸情報を共有し、入居者の視点に立った介護計画が立案されている。入居者や家族の意向や希望を重視し、家族を交えて話し合う機会を必ず設けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の担当者会議、3ヶ月毎の評価だけでなく、状況の変化に応じて、臨機応変な見直しが行われ、職員は常に新鮮な目を失わない様に気を配っている。見直し時には、入居者の気持ちを必ず聴き、家族も参加して話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望による、外泊、自宅訪問、外出等に柔軟に対応している。医療連携体制を整え看取りの支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診が多いが、希望があれば他の馴染みの医療機関への通院支援も行われている。入居前や、入居後にも希望する医療機関について話し合われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針があり、契約時に家族の意向を尋ね、その結果を文書に残している。入居後も状況の変化に応じて主治医の意見を聴き、家族に意向を再確認し、全職員が共通の認識を持って支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りや人間性をありのままに受け入れている。入室は入居者の許可を得て行い、言葉かけや接遇も優しく、さりげなく支援している場面が随所に見受けられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、基本的に一人ひとりが自分のペースで暮らしておられる。起床、就寝時間は自由で、遅い朝食を摂る方もおられる。散歩に出かけたり、居室や共用の居間でそれぞれに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、その日の献立のお知らせを職員と一緒にしたり、食後の片付けをしている方もおられる。職員も入居者と食事を共にしながら、状況に応じてそれとなく支援している場面が見受けられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば毎日入浴が出来る。入浴順や入浴時間も体調や希望を考慮して行われている。入浴拒否はないが、洗髪を嫌がる方がおられるが無理をしないよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、習慣、希望、潜在的な能力、得意分野、今出来る事等の把握に努め、それらを活かした支援を行っている。絵、歌唱、調理、手芸、縫い物、その他の楽しみごとや場面に応じた役割が用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に職員と一緒に出かけ、近所の方と挨拶を交わすこともある。町内の馴染みの場所や入居者の自宅まで車で出かけたたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠による弊害をよく理解しており、日中、玄関は何時も開放してある。入居者の外出には常に気を配っており、それとなく声をかけたり、一緒について行く等、安全に配慮しながら、自由な暮らしを見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「防火・防災計画」により、年2回の昼夜を想定した避難訓練が実施されている。運営推進会議には、地元消防団関係者や区長も出席し、また、訓練時には地域消防団員にも参加してもらい、助言や指導も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に好みを尋ねたり、馴染みの献立を取り入れた高齢者向けの食事内容となっている。職員に栄養士がおり、専門的な観点から献立をみている。お茶が何時でも準備され、夜は枕もとにペットボトルが置いてあり、水分補給も確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい柔らかな光が差し込み、耳障りな雑音も無い。テレビも見たい番組の時だけ、電源が入っている。居間はゆっくりとくつろげる様にソファやテーブルの配置を工夫してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭から馴染みの物が持ち込まれている。環境を整え、すっきりとして、ゆっくりとくつろげる配慮により、その方らしい居室になっている。		